

みんながつながる 地域学校協働活動便り

NO.19

青森県教育庁生涯学習課地域連携推進グループ 統括的な役割を担う地域学校協働活動推進員 工藤 知久子
TEL: 017-734-9890 E-mail: chikuko_kudo@mx.pref.aomori.jp

地域と学校とのパートナーシップ強化事業

地域学校協働活動研修 6地区開催

中南地区



日時:令和7年7月4日(金)
13:20~16:30
会場:弘前市立中央公民館相馬館長慶閣
講師:文部科学省CSマイスター
ふくしま学校と地域の未来研究所
代表 安齋宏之氏
参加者数:43名(内オンライン7名)

安齋氏は、「『子供の新たな学びの実現』を目指したCSと地域学校協働活動の一体的推進」をテーマに、未来の地域を担う人財の育成を通して、今の地域を担う人財を育てていく仕組みが必要であり、「共有できる価値ある目標」をみんなで作ることが大切であると講話されました。模擬熟議では、地域のいいところ(人、自然、歴史、産業等)を探し、地域リソースを活用した校種と学年別の単元構想図を各グループで作成しました。参加者からは「今回の研修により、“腑に落ちた”ところがたくさんあり、今後の学校運営協議会のあり方の課題も見えてきました。」、「熟議の方法を広く周知させるために、より多くの方を対象とした研修が行われることを期待しています。」などの感想がありました。

三八地区



日時:令和7年9月2日(火)
13:20~16:30
会場:ハートフルプラザ・はしかみ
講師:文部科学省CSマイスター
ふくしま学校と地域の未来研究所
代表 安齋宏之氏
参加者数:54名(内オンライン9名)

上北地区



日時:令和7年7月28日(月)
13:20~16:30
会場:東北町北総合運動公園
トレーニングセンター
講師:文部科学省CSマイスター
一般社団法人 S.PLACE
代表理事 井上尚子氏
参加者数:50名(内オンライン2名)

井上氏は、「地域とともにある学校～大事なのは対話と信頼～」をテーマに、学校・地域・家庭が連携・協働したコミュニティ・スクール(以下「CS」という。)の取組は、社会に開かれた教育課程の実現を後押しし、より良い学校教育を目指すものであると講話されました。模擬熟議では「学校教育に地域のチカラをどう生かすか」について話し合い、「CSの機能について確認することができました。」などの感想がありました。

東青地区



日時:令和7年7月29日(火)
13:20~16:30
会場:青森県総合社会教育センター
講師:文部科学省CSマイスター
明星大学教育学部
特任教授 朝倉美由紀氏
参加者数:44名(内オンライン6名)

朝倉氏は、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進～子供たちをまん中に～」をテーマに、学校を核に地域の大人がこどもたちを育てるために、学校課題を地域の大人の代表が話し合い、よりよい解決策を協議し実行するという社会総がかりでこどもを育てる仕組みづくりとして、CSと地域学校協働活動の一体的推進が必要であると話されました。模擬熟議は、資料のデータから強みや課題を見つけ、グループ内で協議し、具体的な取組について考えました。参加者からは、「印象に残ったのは、地域の課題を学校運営協議会に持ち込むのではなく、結果的に課題の解決やつながりができることがWin-Winの関係になる。」、「どうしても何かをする(増える)イメージがあったが、教育課程のどこに置くか一緒に考える(なくす、減らす、かえる)まで話し合うことが大事だとわかった。」、「熟議も具体的に体験することで、イメージが持てた。」、「CSの意義を再確認できる機会となり、有意義な研修でした。同じ資料を様々に解釈できることを実際に体験し、立場の違う方々の意見を聞いたりすることができ参考になりました。」、「参加者それぞれの立場の視点から方策や役割を考えることができました。」などの感想がありました。

西北地区



日時:令和7年8月18日(月)
13:20~16:30
会場:つがる市生涯学習交流センター
「松の館」
講師:文部科学省CSマイスター
明星大学教育学部
特任教授 朝倉美由紀氏
参加者数:43名(内オンライン1名)

下北地区



日時:令和7年8月19日(火)
13:20~16:30
会場:むつ市中央公民館
講師:文部科学省CSマイスター
明星大学教育学部
特任教授 朝倉美由紀氏
参加者数:19名

地域と学校とのパートナーシップ強化事業 モデル県立学校への地域学校協働活動推進員配置成果報告会

7月3日（木）県庁会議室にて、「モデル県立学校への地域学校協働活動推進員配置成果報告会」が開催されました。県立学校におけるCSと地域学校協働活動の一体的推進と教職員の働き方改革への効果等の取組を検証するため、地域学校協働活動推進員（以下「推進員」という。）配置モデル校3校の県立森田養護学校、県立八戸高等支援学校、県立黒石高等学校の取組が報告されました。また、県立高等学校と特別支援学校の教職員40名がオンラインで参加しました。

当課担当者から、モデル県立学校への推進員配置の事業について、取組の概要を説明した後、モデル校3校の教頭先生と推進員が成果発表をしました。推進員配置のメリットとして、「総合的な探究の時間の講師や訪問先等の連絡調整など、教職員の時間と精神的負担軽減につながっていること」、「学校が地域に開かれた学びの場へと変えていく大きな一步であること」、「教職員だけでは気付くことができなかつた『つながり』や『学びの場』が、推進員の存在により確かに広がっていること」などがあげられました。また、推進員からは、「『魅力ある学校』を意識して、高校の活動や魅力を小中学校や地域の方々に知ってもらうとともに、地域からの情報を教員や生徒に伝えるように活動していきたい」という発表がありました。

最後に、文部科学省CSマイスター（岡山県青少年教育センター閑谷学校所長）香山真一氏から、「『地域と学校のウェルビーイングを高めるパートナーシップの在り方』について、多様な個人それが幸せや生きがいを感じ、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなる『ウェルビーイング』の実現は、教育を通じて日本社会に根差し向上を図っていくことが求められている」とのお話があり、推進員配置モデル校3校の活動に対して、平成30年に文部科学省が発行した「学校と地域の連携を一步前に進めるためのヒント集」に基づき、業務の考え方を示すなど、御助言をいただきました。



主催者挨拶



報告の様子（県立森田養護学校）



成果報告会の様子①



報告の様子（県立八戸高等支援学校）



成果報告会の様子②



報告の様子（県立黒石高等学校）

CSマイスター等派遣事業プッシュ型派遣（文部科学省） 青森県立青森中央高等学校令和7年度第1回校内研修



6月16日(月)県立青森中央高等学校にて、CS導入に向けて基本的な概要や先行事例を学ぶために、文部科学省CSマイスターの高野睦氏を講師にお迎えして、校内研修が実施され、教職員50名が参加しました。

始めに、当課担当者から、県内高等学校と特別支援学校におけるCSの実践事例の紹介がありました。

次に、「コミュニティ・スクール(CS)の概要・実践事例について」というテーマで、高野CSマイスターによる講演・演習がありました。冒頭でミニ熟議による演習が行われ、「CSの仕組みを活用して、青森県の将来を支える子どもたちに力をつける」ために、解決したい生徒の課題、手立て、解決に向けて何が必要かをグループに分かれて話し合いました。その後の講義では、「学校の目標や実情に応じた連携・協働により、生徒の学びや地域の課題を見る目が広がる、さらに、地域コミュニティが広がり、安全・安心な生活を送ることができる、取組の充実を図る上でCSの仕組みは効果的である」とお話くださいました。

最後に、教職員から、「学校課題解決のために学校運営協議会をうまく活用するとあったが、地域づくりや地域課題解決はしなくても良いのか」という質問に、当課担当者が「高校は『エリア』にこだわらない『テーマ』型のCSなので、初めのうちは学校の困りごとを中心に話し合っていく学校が多いが、その後は地域貢献も意識した一步踏み込んだCSを運営してほしい」と回答し、終了しました。



弘前市立裾野小学校現職教育



7月25日(金)弘前市立裾野小学校にて、教職員を対象とした校内研修が開催されました。当日は、学校運営協議会委員、教職員、裾野中学校管理職、弘前市教育委員会の方々が参加しました。

当課担当者が講師を務め、前半は、CSの仕組み、地域との連携の必要性やCSと地域学校協働活動の一体的推進について、事例を交えながら説明をしました。

後半は、「笑顔あふれる裾野っ子のために～熟議で話し合おう～」をテーマに演習を行いました。熟議は初めての方がほとんどで、熟議の目的、役割、ルールを説明し、アイスブレイクで和んだ後に、裾野小学校のこども達の良さを活かしながら、様々な地域資源、地域人財を活用した課題解決のための取り組みを話し合い、グループ毎に発表しました。

今回のように、関係者が集まり、それぞれが持っている経験や情報、意見を出し合って、課題解決のための活動を導き出していく熟議は、教育活動のヒントやこども達が地域とともに活動できることを導き出すことのできる効果的な手法の1つです。

今回の研修は、熟議の成果がより明確に、より効果的に教育活動につながると改めて実感した研修会でした。



市町村から報告

県内市町村教育委員会が、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に向けて主催した事業をご紹介します。今回は、五所川原市教育委員会です。



令和7年度 五所川原市地域学校協働活動推進員研修会（情報交換会）

6月27日（金）五所川原市中央公民館で、五所川原市教育委員会主催の「令和7年度 五所川原市地域学校協働活動推進員研修会（情報交換会）」が開催されました。地域学校協働活動の充実と推進員の資質向上及び情報交換のため、6名の推進員が出席し、県教育庁生涯学習課担当者と西北教育事務所指導主事も参加しました。

研修会では、始めに、推進員から各所属学校の今年度の新たな活動と主な活動が発表されました。新たな活動の1つとしては、昼休みの12時35分から30分間程度、図書室でボランティアによる図書の貸出の見守りを行っているというものでした。この活動により、先生が忙しくても目が届き、先生にも図書委員の児童にも好評であるとのことでした。また、日が経つにつれ、本を探せない児童がボランティアに気軽に声を掛けてくれるようになったということです。

次に、主な活動については、「新1年生の給食支援のボランティア、高学年のミシン学習のボランティア、また、体力テストのボランティアを行っている」ということでした。

最後に、活動の中で困っていることについて、情報交換を行いました。最も大変だと感じていることは、ボランティア集めでした。共働きの世帯が多い地区は、「ボランティアを集めにくく、ボランティア名簿はあるものの、いろいろな方にお願いしたいと思っても、いつも同じ方に偏ってしまいがちだ」とのことでした。このことについて、解決策の1つとして、推進員から、「PTAのボランティアとして活動していただいている方に、子どもが卒業した後も活動していただけるよう、卒業前に推進員から直接お願いをしている」という事例が紹介されました。毎年少ない人数でも学校ボランティアとして残っていただくことで、何とか活動を続けられているそうです。日中学校に来てもらいたい時間帯に来られる方は限られているため、ボランティア名簿にたくさんの方に登録してもらうことは、これからも重要な課題になると考えられます。

終わりに、県担当者と教育事務所の方から「皆さん様々な活動をされていることが分かった。ボランティアにも小学校と中学校が連携し、人員を確保してはどうだろうか。」「給食支援で、あまり手を掛け過ぎると何もできなくなると伺ったが、子どもは、ある程度失敗する経験も必要なので、突き放すことも大事だと思う。」「自分も中学校の教員をしてきたが、その時はこのようなボランティアの仕組みはなく、学校がボランティアを頼める今の状況を羨ましく聞いていた。常駐は困難かもしれないが、ボランティアに付き添っていただけるのはありがたいと思う。」などの御意見、御助言をいただきました。

今回の研修会も話し合いが活発に行われ、今後の活動にすぐに結びつく内容が多く、充実した時間となりました。今年度五所川原市では、さらに2校で学校運営協議会が設置される予定です。

